

3. 医師等専門家派遣実績表・派遣年度別リスト

■ 医師等専門家派遣実績表

(年度)(人)

地域	国名	1991 H3	1992 H4	1993 H5	1994 H6	1995 H7	1996 H8	1997 H9	1998 H10	1999 H11	2000 H12	2001 H13	2002 H14	2003 H15	2004 H16	2005 H17	2006 H18	2007 H19	2008 H20	2009 H21	2010 H22	2011 H23	2012 H24	2013 H25	2014 H26	2015 H27	2016 H28	合計	延数
アジア	インド			1				1																				2	4
							(2)																					(2)	
	フィリピン																											0	2
							(2)																					(2)	
韓国												2	2	4	9	5		5		5		5	5				1	43	43
																											0		
モンゴル																	2											2	2
																											0		
北米	アメリカ				4	2		1									3			6		5						21	21
中南米	ブラジル	4		5		1		3										3	1									17	17
																											0		
メキシコ				1																								1	1
																											0		
ヨーロッパ	オーストリア						1																					1	1
																												0	
	ベラルーシ	(10)			(2)	(4)							(3)		4	2	1											7	26
																											(19)		
	フランス				3																							3	3
																											0		
	イタリア			1																								1	1
																											0		
	カザフスタン								4	7	2	5	5			4				1	2							30	30
																										0			
ロシア	10	3		4				1				1	3	1														23	23
																											0		
スイス					4	3					1																	8	8
																											0		
ウクライナ			1		1			1			1					1												5	18
	(10)	(3)																									(13)		
イギリス											2																	2	2
																											0		
小計(a)		14	3	9	11	8	4	5	6	7	4	6	9	5	9	13	13	4	7	8	5	5	5	5	0	0	1	166	202
		(20)	(3)		(2)	(4)	(4)							(3)														(36)	
その他	IAEA																				8	6	1	3	3	2	23	23	
	茨城県東海村臨界事故									9																		9	9
	東日本大震災・福島第一原発事故																				6							6	6
小計(b)										9											6	8	6	1	3	3	2	38	38
合計(a)+(b)		14	3	9	11	8	4	5	6	16	4	6	9	5	9	13	13	4	7	8	11	13	11	6	3	3	3	204	240
		(20)	(3)		(2)	(4)	(4)							(3)														(36)	

※ 派遣団が複数の国を訪問した場合は、最も滞在の長い国を実数、他の国は()により派遣人数を記載

(2) 派遣年度別リスト

年度	派遣期間	派遣先	主な用務	派遣人数
1991 (H3)	3.9～18 (10日間)	ロシア、ウクライナ、 ベラルーシ	チェルノブイリ被曝者治療・ 検診システム等の現状	【広島大学原爆放射能医学研究所】 教授 務中 昌己 【広島大学原爆放射能医学研究所】 教授 伊藤 明弘 【広島大学医学部】 教授 伊藤 勝陽(放医協幹事) 【広島大学医学部】 助手 津谷 隆史 【放射線影響研究所臨床研究部】 内科長 鎌石 和男 【放射線影響研究所放射線生物学部】 細胞生物学研究室長 瀬山 敏雄 【放射線影響研究所疫学部】 主任研究員 清水 由紀子 【広島原爆障害対策協議会】 健康管理・増進センター部長 小川 潤一郎 【広島県原爆被曝者対策課】 主任主事 金光 義雅 【広島市原爆被害対策部】 調査課長 三木 基次
	3.11～23 (13日間)	ブラジル	現地関係機関等との協議・調査	【広島原爆障害対策協議会】 健康管理・増進センター副所長 伊藤 千賀子(放医研幹事) 【広島大学原爆放射能医学研究所】 教授 峠 哲哉 【広島大学医学部】 講師 稲水 惇 【広島県原爆被曝者対策課】 課長補佐 金野 良明(放医協総括書記)
1992 (H4)	9.24～10.4 (11日間)	ロシア、ウクライナ	「チェルノブイリ原発事故の 社会心理学的影響に関する 国際会議」出席、 現地関係機関の調査	【放射線影響研究所臨床研究部】 臨床検査科長 久住 静代 【広島大学医学部】 助手 山口 慎也 【広島市原爆被害対策部】 調査課主査 井上 良隆(放医協書記)
1993 (H5)	9.29～10.5 (7日間)	メキシコ	「第11回IPPNW世界大会」 出席(HICARE事業概要講演)	【広島市医師会】 副会長 茶幡 隆之(放医協元幹事)
	10.10～15 (6日間)	ウクライナ	「第2回チェルノブイリ笹川 医療協力シンポジウム」出席、 関係機関訪問	【広島県原爆被曝者対策課】 主査(兼)援護係長 金本 和己(放医協書記)
	12.3～12 (10日間) ※土肥常任理事は 12.8出発	ブラジル	「セシウム137放射線事故に 関する第2回国際シンポジウム」 出席、関係機関訪問	【広島県医師会】 常任理事 土肥 博雄(放医協幹事) 【放射線影響研究所】 遺伝学部長 阿波 章夫 【広島県原爆障害対策協議会】 健康管理・増進センター部長 佐々木 英夫 【広島県原爆被曝者対策課】 措置係長 河崎 誠(放医協書記) 【広島市原爆被害対策部】 援護課課長補佐 大野 俊浩
	12.11～21 (11日間)	イタリア	「チェルノブイリ事故後の 健康影響に関する 国際ワークショップ」出席	【放射線影響研究所臨床研究部】 臨床検査科長 久住 静代
	12.12～22 (11日間)	インド	「核医学会第25回大会・ 印米核医学学会シンポジウム」 出席、 インド放射線被曝実態調査	【広島大学原爆放射能医学研究所】 教授 鎌田 七男(放医協代表幹事)

年度	派遣期間	派遣先	主な用務	派遣人数
1994 (H6)	6.24～7.9 (16日間)	ロシア	「チェルノブイリ事故復旧作業従事者の健康問題に関する国際諮問会議」出席、現地関係機関等の調査	【放射線影響研究所】 疫学部長 馬淵 清彦
	7.21～29 (9日間)	米国	被爆50周年記念事業 国際シンポジウムに係る調査	【広島県福祉保健部長】 高橋 透(放医協幹事) 【広島県原爆被爆者対策課】 主任主事 竹廣 順次(放医協書記)
	9.13～18 (6日間)	ロシア	「第3回チェルノブイリ医療協力シンポジウム」出席、被爆50周年記念事業 国際シンポジウムに係る調査、関係機関訪問	【広島大学医学部】 教授 上田 一博(放医協幹事)
	9.10～20 (11日間)	ロシア、ベラルーシ	「第3回チェルノブイリ医療協力シンポジウム」出席、被爆50周年記念事業 国際シンポジウムに係る調査、関係機関訪問	【広島市原爆被害対策部】 調査課長 松村 稔範(放医協事務局次長)
	10.21～30 (10日間)	フランス	「IAEAパリ国際会議」出席	【放射線影響研究所】 理事長 重松 逸造(放医協会長)
	12.3～10 (8日間)	フランス	「第5回 WHO REMPAN会議」出席(HICARE活動の報告)	【放射線影響研究所】 常務理事 長谷川 豊 【広島市原爆被害対策部】 調査課主任 横尾 敏彦(放医協総括書記)
	1.6～14 (9日間)	米国	被爆50周年記念事業 国際シンポジウム講師依頼、関係者等訪問	【広島原爆障害対策協議会】 健康管理・増進センター副所長 伊藤 千賀子(放医協幹事) 【広島市原爆被害対策部】 調査課主査 政宗 ひとみ(放医協書記)
	1.6～15 (10日間)	ロシア	ロシア臨床免疫学研究所主催 「国際血液学研究会」出席、関係機関訪問	【広島県医師会 常任理事】 【広島赤十字・原爆病院】 内科部長 土肥 博雄(放医協幹事)
1995 (H7)	5.21～31 (11日間)	ウクライナ	「チェルノブイリ核災害の精神障害・その実態と予後国際会議」出席	【放射線影響研究所臨床研究部】 内科長 鎌石 和男
	10.3～5 (3日間)	米国	シャル研究所主催 第1回国際シンポジウム 「広島・長崎の原爆被爆者と子供たち」出席、関係機関訪問	【放射線影響研究所】 理事長 重松 逸造(放医協会長)
	10.3～12 (10日間)	米国	シャル研究所主催 第1回国際シンポジウム 「広島・長崎の原爆被爆者と子供たち」出席、関係機関訪問	【広島県医師会 常任理事】 【広島赤十字・原爆病院】 内科部長 土肥 博雄(放医協幹事)
	10.28～11.7 (11日間)	ブラジル	「国際癌登録会議」出席、関係機関訪問	【放射線影響研究所疫学部】 副部長 藤田 委由
	11.18～25 (8日間)	スイス	「チェルノブイリ及びその他の放射線事故の健康影響に関する国際会議」(WHO主催、第4回チェルノブイリ医療協力シンポジウム出席、関係機関訪問	【広島原爆障害対策協議会】 健康管理・増進センター副所長 伊藤 千賀子(放医研幹事)
	11.17～25 (9日間)	スイス	「チェルノブイリ及びその他の放射線事故の健康影響に関する国際会議」(WHO主催、第4回チェルノブイリ医療協力シンポジウム出席、関係機関訪問	【放射線影響研究所遺伝疫学部】 副部長 中村 典

年度	派遣期間	派遣先	主な用務	派遣人数
1995 (H7)	11.12～26 (15日間)	スイス	「チェルノブイリ及びその他の放射線事故の健康影響に関する国際会議」(WHO主催、第4回チェルノブイリ医療協力シンポジウム出席、関係機関訪問	【広島県原爆被爆者対策課】 調整係主事 石本 有香(放医協書記)
	11.15～26 (12日間)	スイス、ベラルーシ	「チェルノブイリ及びその他の放射線事故の健康影響に関する国際会議」(WHO主催、第4回チェルノブイリ医療協力シンポジウム出席、関係機関訪問	【広島市原爆被害対策部】 調査課長補佐 向井 正篤(放医協総括書記)
1996 (H8)	4.7～20 (14日間)	オーストリア	「チェルノブイリ事故10周年国際会議、国際放射線防護学会第9回国際会議」出席	【放射線影響研究所】 疫学部長 馬淵 清彦
	5.13～16 (4日間)	スイス	HICARE / WHO国際シンポジウム及び研修生受入事業の打合わせ	【放射線影響研究所】 常務理事 長谷川 豊(放医協幹事)
	11.27～12.6 (10日間)	スイス、インド、フィリピン	受入研修事業についてWHO本部、WHO西太平洋地域事務局と協議	【広島大学原爆放射能医学研究所】 教授 鎌田 七男(放医協代表幹事) 【広島県原爆被爆者対策課】 課長補佐 片山 克則(放医協総括書記)
1997 (H9)	5.28～6.1 (5日間)	米国	HICARE研修生の現地活動調査	【広島県医師会 常任理事】 【広島赤十字・原爆病院】 第1内科部長 土肥 博雄(放医協代表幹事)
	10.15～20 (6日間)	インド	研修生活動調査・面接、関係機関訪問	【広島大学原爆放射能医学研究所】 教授 鎌田 七男(放医協会長)
	11.7～16 (10日間)	ブラジル	「第7回 WHO REMPAN会議」出席、研修生の活動状況調査	【放射線影響研究所】 臨床研究部長 児玉 和紀 【広島県医師会 常任理事】 【広島赤十字・原爆病院】 第1内科部長 土肥 博雄(放医協代表幹事) 【広島市原爆被害対策部】 調査課主査 佐々木 敦子(放医協書記)
1998 (H10)	5.29～6.10 (13日間)	ウクライナ	「第2回チェルノブイリ災害長期健康影響国際会議」出席	【放射線影響研究所】 臨床研究部長 児玉 和紀
	6.20～7.1 (12日間)	ロシア	「オブニンスク線量国際会議」出席、関係機関訪問	【広島大学原爆放射能医学研究所】 助教授 高田 純
	9.11～20 (10日間)	カザフスタン	「放射線、生体及び健康に関する第2回国際会議」出席、関係機関訪問	【広島大学原爆放射能医学研究所】 所長 鎌田 七男(放医協会長) 【広島市医師会】 副会長 朝倉 晃(放医協幹事)
	9.12～20 (9日間)	カザフスタン	「放射線、生体及び健康に関する第2回国際会議」出席、関係機関訪問	【放射線影響研究所】 常務理事 平良 専純(放医協幹事)
	9.11～26 (16日間)	カザフスタン	「放射線、生体及び健康に関する第2回国際会議」出席、関係機関訪問	【広島大学原爆放射能医学研究所】 助手 田中 公夫

年度	派遣期間	派遣先	主な用務	派遣人数
1999 (H11)	10.2~5 (4日間)	茨城県	茨城県東海村の臨界事故に対する医療等の技術支援	【広島大学原爆放射能医学研究所】 助手 田中 英夫 同助手 石川 正純 同技師 竹岡 清二 【広島大学医学部付属病院】 技師 木口 雅夫 【広島赤十字・原爆病院】 看護婦長 福伝 政子 【日本赤十字社広島県支部】 組織振興課長 脇谷 孔一 【広島県原爆被爆者対策課】 調整係長 功野 和正(放医協書記)
	10.2~4 (3日間)	茨城県	茨城県東海村の臨界事故に対する医療等の技術支援	【広島赤十字・原爆病院】 医師 山口 博志
	10.3~5 (3日間)	茨城県	茨城県東海村の臨界事故に対する医療等の技術支援	【広島赤十字・原爆病院】 医師 畑中 俊幸
	10.5~20 (16日間)	カザフスタン	被曝者医療関係者に対する 検診技術等の指導、 セミパラチンスクにおける 被曝者医療の状況等の調査	【広島大学原爆放射能医学研究所】 助手 田中 英夫 同非常勤講師 山田 英雄 同客員教授 ズマジーロフ・ザクジバ 同大学院生 タマラ・ジュニョンバ
	10.5~13 (9日間)	カザフスタン	被曝者医療関係者に対する 検診技術等の指導、 セミパラチンスクにおける 被曝者医療の状況等の調査	【広島大学原爆放射能医学研究所】 非常勤講師 武市 宣雄 【興生総合病院】 臨床検査技師 福田 佳子 【広島市原爆被害対策部】 主査 児玉 裕司(放医協書記)
2000 (H12)	5.31~6.12 (13日間)	ウクライナ	「第3回チェルノブイリ事故の 健康被害に関する国際会議： 15年の追跡結果」出席	【広島大学医学部】 教授 上田 一博(放医協幹事)
	6.2~10 (9日間)	英国	「第8回 WHO REMPAN会議」 出席	【広島市医師会】 副会長 田中 一誠(放医協幹事) 【放射線影響研究所】 常務理事 平良 専純(放医協幹事)
	8.8~16 (9日間)	カザフスタン	被曝者医療関係者に対する 検診技術等の指導	【広島大学原爆放射能医学研究所】 非常勤講師 武市 宣雄 【JA広島総合病院】 画像診断部主任部長 藤川 光一 【武市クリニック】 看護婦 迫本 恵子 臨床検査技師 小林 麗子 臨床検査技師 今釜 香織
	8.14~22 (9日間)	カザフスタン	被曝者医療関係者に対する 検診技術等の指導	【広島大学原爆放射能医学研究所】 助手 田中 公夫 同非常勤講師 武市 宣雄
2002 (H14)	7.16~23 (8日間)	カザフスタン	現地被曝者医療関係者に対する 技術指導等	【広島大学原爆放射能医学研究所】 非常勤講師 武市 宣雄 【済生会広島病院】 外科医長 野宗 義博 【武市クリニック】 看護婦 迫本 恵子 臨床検査技師 岩尾 みどり 臨床検査技師 熊谷 久加
	8.23~9.2 (11日間)	スイス	「第1回職業放射線防護 国際会議：電離放射線被曝から 労働者を防護するために」出席	【広島大学医学部】 助手 権丈 雅浩

年度	派遣期間	派遣先	主な用務	派遣人数
2002 (H14)	12.7～13 (7日間)	ロシア	「第9回 WHO REMPAN会議」出席	【放射線影響研究所】 臨床研究部長 鈴木 元
	1.14～18 (5日間)	韓国	HICARE事業の広報活動	【放医協事務局】 書記 沖邊 雅子 書記 鍵本 清治
2003 (H15)	2.23～27 (5日間)	韓国	研修生受入事業に係る説明	【放医協事務局】 総括書記 斎藤 司 【広島市原爆被害対策部援護担当】 主査 海老本 誠司
	3.19～28 (10日間)	ロシア、ベラルーシ	現地被曝者医療関係者に対する 技術指導等	【広島大学原爆放射線医学研究所】 教授 星 正治 【広島大学原爆放射能医学研究所】 非常勤講師 武市 宣雄 【広島大学原爆放射線医学研究所】 非常勤講師 山田 英雄
2004 (H16)	5.22～6.5 (15日間)	ベラルーシ	現地被曝者医療関係者に対する 技術指導等を実施	【広島赤十字・原爆病院】 病理検査課長 梶原 忠雄 看護師 田中 久美子
	10.9～18 (10日間)	ロシア	「第10回 WHO REMPAN会議」 出席	【広島大学原爆放射線医学研究所】 所長 神谷 研二(放医協理事)
	10.22～11.1 (11日間)	ベラルーシ	現地被曝者医療関係者に対する 技術指導等を実施	【武市クリニック】 病院長 武市 宣雄 臨床検査技師 三本 亜希
	11.9～13 (5日間)	韓国	帰国後の医療活動等を調査	【広島赤十字・原爆病院】 院長 土肥 博雄(放医協会長) 【広島大学医歯薬総合研究科】 講師 和田崎 晃一 【事務局】 書記 小園 登久男 書記 村末 隆
2005 (H17)	5.16～23 (8日間)	カザフスタン	「カザフスタン国際反核会議」出席	【広島大学原爆放射線医学研究所】 教授 星 正治(HICARE幹事)
	9.26～10.3 (8日間)	カザフスタン	受入研修や派遣の効果を検証、 研修生とのネットワークを再構築し、 今後の支援のあり方を検討	【広島赤十字・原爆病院】 呼吸器科部長 有田 健一(HICARE幹事) 【事務局】2名
	1.23～27 (5日間)	韓国	受入研修に関する協議、 緊急被ばく医療の拠点施設との ネットワークの構築	【広島県医師会】 常任理事 柳田 実郎(HICARE代表幹事) 【広島市医師会】 妹尾 紀具 【広島大学大学院医師薬学総合研究科】 教授 谷川 攻一(HICARE幹事) 【広島大学病院緊急被ばく医療センター】 医師 稗田 雅司 【広島大学原爆放射線医学研究所】 教授 星 正治(HICARE幹事) 【広島原爆障害対策協議会】 健康管理・増進センター所長 佐々木 英夫(HICARE幹事) 【広島赤十字・原爆病院】 看護部看護係長 黒瀬 真理子 【事務局員】2名
2006 (H18)	4.19～21 (3日間)	ベラルーシ	「チェルノブイリ20年国際会議」出席	【広島大学原爆放射線医学研究所】 教授 星 正治(HICARE)幹事 【武市クリニック院長】 武市 宣雄

年度	派遣期間	派遣先	主な用務	派遣人数
2006 (H18)	4.24～28 (5日間)	ウクライナ	「チェルノブイリ原発事故20年 会議・WHO REMPAN合同会議」出席	【広島赤十字・原爆病院】 院長 土肥 博雄(HICARE会長)
	10.30～11.3 (5日間)	韓国	受入研修に関する協議、 研修生とのネットワーク強化	【放射線影響研究所】 主席研究員 児玉 和紀(HICARE)幹事 【広島大学病院】 放射線科部長 伊藤 勝陽(HICARE幹事) 【広島市医師会】 副会長 桑原 正雄(HICARE幹事) 【事務局員】2名
	1.14～21 (8日間)	米国	受入研修に関する協議、 研修生とのネットワーク強化	【広島県医師会常任理事】 柳田 実郎(HICARE代表幹事) 【事務局員】2名
	3.19～23 (5日間)	モンゴル	放射線被曝者医療体制の 調査及び今後の連携方法の協議	【広島大学原爆放射線医学研究所】 教授 星 正治(HICARE幹事) 【広島大学平和科学研究センター】 教授 松尾 雅嗣
2007 (H19)	9.2～11 (10日間)	ベラルーシ	受入研修や派遣の効果の検証	【広島赤十字・原爆病院】 院長 土肥 博雄(HICARE会長) ※他に日赤等から4名派遣
	10.8～19 (12日間)	ブラジル	ブラジルでの被曝者医療 現地研修の実施	【広島赤十字・原爆病院】 院長 土肥 博雄(HICARE会長) 【広島大学病院】 放射線科部長 伊藤 勝陽(HICARE幹事) 【事務局員】1名 ※他に県医師会及び広島県から4名派遣
2008 (H20)	6.17～25 (9日間)	ブラジル	研修生間のネットワーク強化、 日伯医療シンポジウムにおける 講演	【広島赤十字・原爆病院】 院長 土肥 博雄(HICARE会長) ※他に広島県医師会団から7名派遣
	8.8～16 (9日間)	カザフスタン	現地被曝者医療関係者に 対する技術指導等	【武市クリニック】 病院長 武市 宣雄 ※他に広大原医研から星教授(HICARE幹事) ヒロシマ・セミハラチンスク・プロジェクトから5名派遣
	2.2～6 (5日間)	韓国	受入れ研修に関する協議、 被曝者医療・緊急被曝医療拠点 とのネットワーク強化	【広島赤十字・原爆病院】 呼吸器科部長 有田 健一(HICARE幹事) 【広島市民病院】 放射線科主任部長 浦島 正喜 【広島赤十字・原爆病院】 看護副部長 籠島 政江 【事務局員】2名
2009 (H21)	8.25～9.2 (9日間)	カザフスタン	「カザフスタン国際反核会議」出席	【広島大学原爆放射線医学研究所】 教授 星 正治 ロシア語医療通訳 山田 英雄 ※他にHICARE以外から、医師等2名同行
	12.2～9 (8日間)	米国	アメリカでの被曝者医療 セミナーの実施	【広島県医師会】 会長 碓井 静照(HICARE理事) 【広島赤十字・原爆病院】 院長 土肥 博雄(HICARE会長) 【放射線影響研究所】 主席研究員 児玉 和紀(HICARE幹事) 【広島県医師会常任理事】 松村 誠 【事務局員】2名

年度	派遣期間	派遣先	主な用務	派遣人数
2010 (H22)	4.27～30 (4日間)	韓国	「第1回緊急被ばく医療国際会議」 (KIRAMS主催)出席	【広島大学病院】 高度救命救急センター長 谷川 攻一(HICARE幹事)
	2.22～25 (4日間)	韓国	在韓被爆者医療に携わる 医師等に対する効果的な 研修についての協議、韓国の 緊急被ばく医療拠点との ネットワーク強化のための協議等	【広島大学原爆放射線医学研究所】 所長 神谷 研二(HICARE理事) 【広島大学原爆放射線医学研究所】 教授 田代 聡(HICARE幹事) 【事務局員】2名
	3.16～22 (7日間)	福島県	東日本大震災・ 福島第一原子力発電所の 事故発生に伴う放射線量測定 チームの編成・派遣	【広島赤十字・原爆病院】 放射線科部中央放射線科 田中丸 芳樹 【広島赤十字・原爆病院】 看護係長 石崎 ゆかり 【広島大学技術センター】 放射線管理技術班長 菅 慎治 【放射線影響研究所】 臨床研究部検診科 栗栖 紀典 【広島県被爆者対策課】 山脇 明 【広島市原爆被害対策部】 漆原 正浩
2011 (H23)	10.31～11.5 (6日間)	オーストリア	IAEA・HICARE協働事業連絡 会議・セミナーを開催	【広島赤十字・原爆病院】 院長 土肥 博雄(HICARE会長) 【放射線影響研究所】 主席研究員 児玉 和紀(HICARE幹事) 【広島大学原爆放射線医学研究所】 教授 田代 聡(HICARE幹事) 【広島県健康福祉局長】 佐々木 昌弘(HICARE幹事) 【事務局員】2名
	2.22～26 (5日間)	米国	アメリカ(ハワイ州)での 被爆者医療セミナーの開催	【広島赤十字・原爆病院】 院長 土肥 博雄(HICARE会長) 【放射線影響研究所】 主席研究員 児玉 和紀(HICARE幹事) 【広島大学】 教授 谷川 攻一(HICARE幹事) 【事務局員】2名
2012 (H24)	2.19～21 (3日間)	韓国	韓国での放射線被曝医療 セミナーの開催	【放射線影響研究所】 理事長 大久保 利晃(HICARE会長) 【放射線影響研究所】 主席研究員 児玉 和紀(HICARE幹事) 【広島大学大学院】 教授 谷川 攻一(HICARE幹事) 【事務局員】2名
2013 (H25)	1.21～23 (3日間)	韓国	被爆者医療・研究機関等との 連携強化のための協議等	【広島大学病院】 放射線治療科教授 永田 靖(HICARE幹事) 【広島原爆障害対策協議会】 健康管理・増進センター所長 藤原 佐枝子(HICARE幹事) 【広島大学病院】 放射線治療科講師 木村 智樹 【事務局員】2名
2016 (H28)	9.4～7 (4日間)	韓国	被爆者医療・研究機関等との 連携強化、NASHIMセミナーへの 参加、25周年事業への 協力依頼等	【広島県医師会常任理事】 広島赤十字・原爆病院副院長 加世田 俊一(HICARE代表幹事) 【事務局員】2名